



## ごあいさつ

21世紀においても、「ふるさと神奈川」が明るく生き活きと発展していけるよう、その道筋を示す見取図として「かながわ新総合計画21（新総21）」を平成9年1月に策定し、県ではこの計画を基に全力を挙げて諸施策の推進に努めてまいりました。このたび、計画を取り巻く社会経済状況の著しい変化に的確に対応するために見直しを実施し、重点的に取り組むべき課題を中心に計画の改訂をいたしました。

計画の見直しにあたりましては、県民の皆様や市町村の方々から多くの貴重なご意見をお寄せいただき、そうしたご意見を基にして「改訂・かながわ新総合計画21（改訂・新総21）」をとりまとめることができました。皆様のご理解とお力添えに感謝申し上げます。

今年は、20世紀から21世紀への架け橋となる年であり、4月には地方分権一括法が施行され、介護保険制度の運営も始まります。まさに、地方自治の新しい実践の第一歩を踏み出す年に、21世紀に向けてこの「改訂・新総21」もスタートします。

「改訂・新総21」では、総合的な廃棄物対策や地球温暖化防止対策など、「環境立県かながわ」にふさわしい施策を充実したほか、原子力災害対策などの新たに鮮明となってきた政策課題への的確な対応を図っています。また、これまで3年間の新総21の取組みから育ってきた京浜臨海部再編整備構想や県央・湘南都市圏整備構想の実現に向けた取組みなどの芽をさらに伸ばすとともに、県立保健医療福祉大学（仮称）の整備や県立高校改革などの施策展開、特色ある地域づくりに向けた取組みも一層の充実を図ります。

県財政は引き続き厳しい状況が続くものと思いますが、県自らが財政の健全化に取り組み、行政システム改革を徹底していくとともに、県民の皆様や市町村の方々と手を携え、この「改訂・新総21」の推進を図ることで、21世紀の神奈川の基盤となる県土づくり、まちづくり、そして人づくりを進めてまいります。

「活力ある神奈川、心豊かなふるさと」を築くため、今後とも、皆様の暖かいご理解とお力添えをお願い申し上げます。

平成12年3月

神奈川県知事

岡崎 洋



## ごあいさつ

21世紀を目前に控え、日本では、少子高齢化による人口構造の変化が進むとともに、情報技術の飛躍的進歩によって産み出されたネットワーク経済の創出などによる産業構造の変化や経済のグローバル化が生じています。また、オゾン層の破壊や地球温暖化に代表される地球規模での環境問題は、ますます深刻化しています。

幕末の開国から近代、現代を通じ、時代を切り拓いてきた神奈川は、このような時代の激しい変化の直中にあります。

その神奈川の21世紀の将来方向と道筋を明らかにした「かながわ新総合計画21（新総21）」を、平成9年に県が策定してから3年が経ちましたが、時代の変化の方向性は、この計画の中で将来展望として見通したものと一致しており、あらためてこの計画の時代認識の確かさを実感いたしました。

今回、計画策定時の中長期的な時代認識をもとにした計画の基本的な考え方は踏襲しながら、環境問題の顕在化や経済回復の遅れなど計画策定後の社会経済状況の変化に対応して計画を柔軟に推進するため、この新総21の初めての定期的な見直し（ローリング）が行われましたが、再びそのお手伝いをすることができました。

この見直しのプロセスでも、策定時と同様に、県民や市町村の参加が重視され、大変多くのご意見が寄せられ、そのご意見ごとに計画への反映結果を公表するなど、見直し手続きの透明性が高められたことは、非常に素晴らしいことであると思います。

それと同時に、県民参加を重視した見直しのプロセスを通じて、新総21が21世紀の神奈川の道標として、より身近で確かなものとなったであろうと考えます。

神奈川は、これからも、時代の激しい変化の中に置かれるものと思いますが、県と市町村と県民とが力を合わせて、その変化に挑み、この計画を柔軟に推進していくことで、引き続き新しい時代を切り拓いていくことを心から願っています。

平成12年3月

神奈川県総合計画審議会会長

香西 泰